

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	I G L 医療福祉専門学校
設置者名	学校法人 I G L 学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	夜・通信	10 単位	6 単位	
医療専門課程	鍼灸学科	夜・通信	10 単位	9 単位	
	柔整学科	夜・通信	10 単位	9 単位	
	歯科衛生学科	夜・通信	9 単位	9 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校ホームページ https://www.igl.ac.jp/guide/jikotenken
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	I G L 医療福祉専門学校
設置者名	学校法人 I G L 学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校ホームページ <https://www.igl.ac.jp/guide/jikotenken>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人理事長	2022. 10. 1～ 2025. 9. 30	法人経営全般に 関する事
非常勤	大学名誉教授	2022. 10. 1～ 2025. 9. 30	法人経営全般に 関する事
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	I G L医療福祉専門学校
設置者名	学校法人 I G L学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
・授業計画の(シラバス)の作成過程 各授業担当者がカリキュラムに指定されている授業の方法や授業回数から内容、到達目標、授業スケジュール、成績評価の方法や基準の作成を行い、学科長が確認する。 ・授業計画の作成・公表時期 3月末までに作成し、4月に公表する。	
授業計画書の公表方法	
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
・単位授与、履修認定の実施状況 授業計画(シラバス)に記載した成績評価の方法や基準のとおり、定期試験やレポートなどで学修成果の評価を行なっている。この評価に基づき単位授与を行なっている。具体的な基準はつぎのとおり。 ① 定期試験の受験資格 講義・演習科目は授業時間数の3分の2以上(柔整学科専門科目については5分の4以上) 実習科目は授業時間数の5分の4以上 ② 定期試験の種類 学期ごとに定期的に行う試験をいい、次の試験があります。 学期末試験(前期末試験・後期末試験) 中間試験(科目によっては行われることがあります。) ③ 学業成績 学期末評価は定期試験の成績により評価します。学期単位で履修する科目については、60点以上の評価を得たときに単位が認定されます。通年で履修する科目については、各科目における学期末評価をもとに学年末に100点満点で評価し60点以上をもって単位が認定されます。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ・客観的な指標の具体的な内容 当該学年で開講された授業科目の成績評価を100点満点に換算し取得した点数の平均を求める。その平均点を指標とする。 ・客観的な指標の適切な実施状況 あらかじめ設定した算出方法により平均点を算出し成績分布状況を把握している。 ・学生の成績分布状況の確認方法 学年末に成績表と成績分布表を郵送により配布する。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.igl.ac.jp/guide/jikotenken
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ・卒業の認定方針 各学科が目標とする国家資格に必要な知識と技能を修得しているものに卒業を認定する。卒業までに身に付けてほしい資質・能力はつぎのとおり。 ① 専門的知識と専門技術を用いて他分野の専門職とチームを構成し、専門知識と専門技術を活用することができる。 ② 協調性とコミュニケーション能力を備え他職種と連携をとり地域医療・福祉に貢献することができる。 ③ 豊かな人間力や他者への思いやりの心と人によりそう豊かな感性を持ち、その想いを医療・福祉の力にかえることができる。 ④ 主体的問題解決能力を身につけ、知識や技術の向上に主体的に取り組み、問題を解決できる。 ・実施状況 卒業に必要な単位を全て修得していることを卒業認定会議で確認し卒業の認定を行なっている。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.igl.ac.jp/guide/jikotenken

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	I G L 医療福祉専門学校
設置者名	学校法人 I G L 学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.igl.ac.jp/guide/jikotenken
収支計算書又は損益計算書	https://www.igl.ac.jp/guide/jikotenken
財産目録	https://www.igl.ac.jp/guide/jikotenken
事業報告書	https://www.igl.ac.jp/guide/jikotenken
監事による監査報告（書）	https://www.igl.ac.jp/guide/jikotenken

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2, 138 単位時間／単位	1, 118 単位時間 ／単位	570 単位時間 ／単位	450 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			2, 138 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		51 人	22 人	5 人	11 人	16 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） - 授業計画の（シラバス）の作成過程 各授業担当者がカリキュラムに指定されている授業の方法や授業回数から内容、到達目標、授業スケジュール、成績評価の方法や基準の作成を行い、学科長が確認する。 - 授業計画の作成・公表時期 3月末までに作成し、4月に公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） - 客観的な指標の具体的な内容 当該学年で開講された授業科目の成績評価を100点満点に換算し取得した点数の平均を求める。その平均点を指標とする。 - 客観的な指標の適切な実施状況 あらかじめ設定した算出方法により平均点を算出し成績分布状況を把握している。 - 学生の成績分布状況の確認方法 学年末に成績表と成績分布表を郵送により配布する。
卒業・進級の認定基準

(概要) - 卒業の認定方針 各学科が目標とする国家資格に必要な知識と技能を修得しているものに卒業を認定する。卒業までに身に付けてほしい資質・能力はつぎのとおり。 ① 専門的知識と専門技術を用いて他分野の専門職とチームを構成し、専門知識と専門技術を活用することができる。 ② 協調性とコミュニケーション能力を備え他職種と連携をとり地域医療・福祉に貢献することができる。 ③ 豊かな人間力や他者への思いやりの心と人によりそう豊かな感性を持ち、その想いを医療・福祉の力にかえることができる。 ④ 主体的問題解決能力を身につけ、知識や技術の向上に主体的に取り組み、問題を解決できる。 - 実施状況 卒業に必要な単位を全て修得していることを卒業認定会議で確認し卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) 成績不良者に対して面談を行うとともに、補習や課題提出等を行っている。また、保護者に状況を連絡し対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14 人 (100%)	0 人 (0%)	14 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 高齢者関係施設			
(就職指導内容) ・求人情報を就職支援システムで提供し自由に閲覧できるようにしている。 ・個別面談、就職ガイダンス、就職実務授業の実施。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 国家資格：介護福祉士 その他：ダイバージョナルセラピー・普通救命講習Ⅰ、医療的ケア基本研修			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39 人	3 人	7.7%
(中途退学の主な理由) 体調不良、進路変更		

(中退防止・中退者支援のための取組)
・クラス担任制をとっており、クラス担任が定期的に面談を行っている、また、必要に応じて保護者に連絡し適切に対応している。
・スクールカウンセラーによる相談体制が整い、学生が必要に応じて活用している。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	2,670 単位時間／単位	1,620 単位時間 /単位	330 単位時間 /単位	720 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,670 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		41 人	0 人	6 人	13 人	19 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・授業計画の（シラバス）の作成過程 各授業担当者がカリキュラムに指定されている授業の方法や授業回数から内容、到達目標、授業スケジュール、成績評価の方法や基準の作成を行い、学科長が確認する。 ・授業計画の作成・公表時期 3 月末までに作成し、4 月に公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） ・客観的な指標の具体的な内容 当該学年で開講された授業科目の成績評価を100点満点に換算し取得した点数の平均を求める。その平均点を指標とする。 ・客観的な指標の適切な実施状況 あらかじめ設定した算出方法により平均点を算出し成績分布状況を把握している。 ・学生の成績分布状況の確認方法 学年末に成績表と成績分布表を郵送により配布する。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・卒業の認定方針 各学科が目標とする国家資格に必要な知識と技能を修得しているものに卒業を認定する。卒業までに身に付けてほしい資質・能力はつぎのとおり。 ⑤ 専門的知識と専門技術を用いて他分野の専門職とチームを構成し、専門知識と専門技術を活用することができる。 ⑥ 協調性とコミュニケーション能力を備え他職種と連携をとり地域医療・福祉に貢献することができる。 ⑦ 豊かな人間力や他者への思いやりの心と人によりそう豊かな感性を持ち、その想いを医療・福祉の力にかえることができる。 ⑧ 主体的問題解決能力を身につけ、知識や技術の向上に主体的に取り組み、問題を解決できる。

・実施状況 卒業に必要な単位を全て修得していることを卒業認定会議で確認し卒業の認定を行っている。
学修支援等
(概要) ・成績不良者に対して面談を行うとともに、補習や課題提出等を行っている。また、保護者に状況を連絡し対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16 人 (100%)	0 人 (0%)	14 人 (87.5%)	2 人 (12.5%)
(主な就職、業界等) 鍼灸・整骨院、鍼灸院、治療院開業			
(就職指導内容) ・求人情報を就職支援システムで提供し自由に閲覧できるようにしている。 ・7月末に就職説明会を行い、求人者側と接触する機会を設けている。 ・就職に関する面談を随時行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・国家資格：はり師・きゅう師			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44 人	5 人	11.4%
(中途退学の主な理由) ・体調不良、進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・クラス担任制をとっており、クラス担任が定期的に面談を行っている、また、必要に応じて保護者に連絡し適切に対応している。 ・スクールカウンセラーによる相談体制が整い、学生が必要に応じて活用している。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	柔整学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技

3 年	昼間	2,805 単位時間／単位		1,245 単位時間 ／単位	510 単位時間 ／単位	1,050 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
				2,805 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数
90 人		29 人	0 人	6 人		13 人		19 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） ・ 授業計画の（シラバス）の作成過程 各授業担当者がカリキュラムに指定されている授業の方法や授業回数から内容、到達目標、授業スケジュール、成績評価の方法や基準の作成を行い、学科長が確認する。 ・ 授業計画の作成・公表時期 3 月末までに作成し、4 月に公表する。	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・ 客観的な指標の具体的な内容 当該学年で開講された授業科目の成績評価を100点満点に換算し取得した点数の平均を求める。その平均点を指標とする。 ・ 客観的な指標の適切な実施状況 あらかじめ設定した算出方法により平均点を算出し成績分布状況を把握している。 ・ 学生の成績分布状況の確認方法 学年末に成績表と成績分布表を郵送により配布する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・ 卒業の認定方針 各学科が目標とする国家資格に必要な知識と技能を修得しているものに卒業を認定する。卒業までに身に付けてほしい資質・能力はつぎのとおり。 ⑨ 専門的知識と専門技術を用いて他分野の専門職とチームを構成し、専門知識と専門技術を活用することができる。 ⑩ 協調性とコミュニケーション能力を備え他職種と連携をとり地域医療・福祉に貢献することができる。 ⑪ 豊かな人間力や他者への思いやりの心と人によりそう豊かな感性を持ち、その想いを医療・福祉の力にかえることができる。 ⑫ 主体的問題解決能力を身につけ、知識や技術の向上に主体的に取り組み、問題を解決できる。 ・ 実施状況 卒業に必要な単位を全て修得していることを卒業認定会議で確認し卒業の認定を行っている。	
学修支援等	
（概要） ・ 成績不良者に対して面談を行うとともに、補習や課題提出等を行っている。また、保護者に状況を連絡し対応している。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (85.7%)	2 人 (14.3%)
（主な就職、業界等） 接骨院・鍼灸接骨院、トレーニングジム			
（就職指導内容） ・求人情報を就職支援システムで提供し自由に閲覧できるようにしている。 ・個別面談、就職ガイダンス、就職特別講座の実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・国家資格：柔道整復師			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35 人	4 人	11.4%
（中途退学の主な理由） ・進路変更、心身状況によるもの		
（中退防止・中退者支援のための取組） ・クラス担任制をとっており、クラス担任が定期的に面談を行っている、また、必要に応じて保護者に連絡し適切に対応している。 ・スクールカウンセラーによる相談体制が整い、学生が必要に応じて活用している。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程		歯科衛生学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼間	2, 534 単位時間／単位		1, 154 単位時間 /単位	124 単位時間 /単位	1, 256 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	
				2, 534 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
150 人		106 人	1 人	5 人		38 人		43 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
（概要） ・ 授業計画の（シラバス）の作成過程 各授業担当者がカリキュラムに指定されている授業の方法や授業回数から内容、到達目標、授業スケジュール、成績評価の方法や基準の作成を行い、学科長が確認する。 ・ 授業計画の作成・公表時期 3 月末までに作成し、4 月に公表する。			
成績評価の基準・方法			
（概要） ・ 客観的な指標の具体的な内容 当該学年で開講された授業科目の成績評価を100点満点に換算し取得した点数の平均を求める。その平均点を指標とする。 ・ 客観的な指標の適切な実施状況 あらかじめ設定した算出方法により平均点を算出し成績分布状況を把握している。 ・ 学生の成績分布状況の確認方法 学年末に成績表と成績分布表を郵送により配布する。			
卒業・進級の認定基準			
（概要） ・ 卒業の認定方針 各学科が目標とする国家資格に必要な知識と技能を修得しているものに卒業を認定する。卒業までに身に付けてほしい資質・能力はつぎのとおり。 ⑬ 専門的知識と専門技術を用いて他分野の専門職とチームを構成し、専門知識と専門技術を活用することができる。 ⑭ 協調性とコミュニケーション能力を備え他職種と連携をとり地域医療・福祉に貢献することができる。 ⑮ 豊かな人間力や他者への思いやりの心と人によりそう豊かな感性を持ち、その想いを医療・福祉の力にかえることができる。 ⑯ 主体的問題解決能力を身につけ、知識や技術の向上に主体的に取り組み、問題を解決できる。 ・ 実施状況 卒業に必要な単位を全て修得していることを卒業認定会議で確認し卒業の認定を行っている。			
学修支援等			
（概要） ・ 成績不良者に対して面談を行うとともに、補習や課題提出等を行っている。また、保護者に状況を連絡し対応している。			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
28 人 (100%)	0 人 (0%)	27 人 (96.4%)	1 人 (3.6%)
（主な就職、業界等） 歯科医院・医療施設			

(就職指導内容)
・就職説明会を開催し、就職のためのマナー等を指導。卒業生を招いて講義を行い、体験談からどのような歯科医院に就職したいか考えさせている。 ・面談を担当が中心に行い、指導を行うとともに、他の教員と情報を共有しながら、各学生の就職活動や就職希望を把握、相談をしながら歯科医院への就職支援を行っている。
(主な学修成果（資格・検定等））
・国家資格：歯科衛生士
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
106 人	10 人	9.43%
(中途退学の主な理由)		
・進路変更、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
・クラス担任制をとっており、クラス担任が定期的に面談を行っている、また、必要に応じて保護者に連絡し適切に対応している。 ・スクールカウンセラーによる相談体制が整い、学生が必要に応じて活用している。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
介護福祉学科	120,000 円	770,000 円	50,000 円	※その他… 休学期間中の授業料（半期ごと）
鍼灸学科	300,000 円	1,240,000 円	50,000 円	※その他… 休学期間中の授業料（半期ごと）
柔整学科	300,000 円	1,240,000 円	50,000 円	※その他… 休学期間中の授業料（半期ごと）
歯科衛生学科	150,000 円	750,000 円	50,000 円	※その他… 休学期間中の授業料（半期ごと）
修学支援（任意記載事項）				
本校では、2025 年度入学生より、日本学生支援機構の給付奨学金の採用候補者で、前期授業料の納入猶予を希望する新入生に対し、前期授業料の徴収期限を 5 月末まで猶予するとともに、制度に基づく減免額を差し引いた額を徴収するサポート制度を開始している。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.igl.ac.jp/guide/jikotenken		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
・学校が行った自己点検評価の結果について学校関係者による外部評価を行う。教育活動・学校運営について、社会のニーズを踏まえた目標を設定し、その達成状況や取り組みの適切さについて評価・公表をすることにより、組織的に改善を図る。学校関係者評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき自己点検・評価を基本とする。 ・教職員は、学校関係者評価の結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上を継続的に努める。 ・評価委員は各学科に関係する業界団体等の役職員、高等学校関係者、卒業生等の中から校長が委嘱する。（委員定数 6 名）		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
公益社団法人広島市老人福祉施設連盟副会長 特別養護老人ホームなごみの郷 施設長	2025 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	企業等委員
ほほえみグループ エクセレント鍼灸院 院長	2025 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	企業等委員
医療法人齊和會 広島クリニック 経理部長	2025 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	企業等委員
一般社団法人 広島県歯科衛生士会 副会長	2025 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	企業等委員
学校法人鶴学園 広島工業大学高等学校 学校長	2025 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	学校関係
学校法人 I G L 学園 評議員 I G L 医療福祉専門学校同窓会会長	2025 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.igl.ac.jp/guide/jikotenken		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.igl.ac.jp
--

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H 1 3 4 3 1 0 0 0 2 7 4
学校名 (〇〇大学 等)	I G L 医療福祉専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 I G L 学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		28人（ ）人	22人（ ）人	28人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	17人	16人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）			
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）			
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ ）人
合計（年間）				28人（ ）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良である
ことについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたこと
により認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	—	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	—	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。